

子宮内外同時妊娠

診療も終わり、帰宅しようと着替えているところへ緊急入院の報告。所見では、超音波診断で胎児が認められ、心拍も確認されていた。

ところが、腹腔内に大量の血液貯留が見られるため、緊急手術が必要と転送されて来た。入院時、患者さんは下腹痛を訴え、顔面は蒼白、直ちに手術が施され、腹腔内に約1700mlの凝血と血液がみられ、右卵管の一部が骨盤壁の腹膜とかすかに癒着（ゆちゃく）していた。しかし大量出血の原因となるような異常所見は他に認められず、癒着していた卵管を剥離（はくり）し、出血している卵管を一部切除して手術を終えた。

術後の経過は順調で、流産徴候も見られなかった。不思議な思いで数日が過ぎたが、病理組織検査で、「切除した卵管に胎児組織の絨毛が認められる」との報告を受け、初めて子宮内外同時妊娠で、右卵管の子宮外妊娠が大量出血の原因だと考えられたのである。

数日前、新潟大学病院で不妊患者さんが、やっと妊娠したのはよかったが超音波診断で内外同時妊娠と診断され、対応に苦慮しているが、子宮外妊娠の臨床症状が無いので自然に経過をみていると聞かされたばかりであった。しかし、経験も無いことなので半信半疑の気持ちで、今後どう扱うべきか大学の先生方と検討しただけでいた。

日常診療においては、超音波診断で子宮内に正常妊娠と診断されていれば、子宮外妊娠が同時に存在する等ということは中々思い浮かぶものではないと思う。むしろ超音波診断装置がまだ普及していなかった頃は、子宮外妊娠で手術した患者さんが、数日前に人工妊娠中絶を受けていたり、流産の治療を受けているような場合に、苦しまぎれに内外同時妊娠という言葉の口にする程度であった。子宮内外同時妊娠というケースは、産婦人科医でも一生に経験するか否かというくらい非常に稀な疾患であり、3万例に1例といわれている。

しかし、このように現実に2例続けて経験すると、実際には報告が無いだけで本当はもっと多く見られるかもしれないとも思う。

何万例に1例という稀な病気でも、患者さんには生死にかかわる事もあり、忙しい中であっても＜思い込み治療＞をしないように注意しながら患者さんの前に立っている。

大学病院の症例は、子宮外妊娠の方は自然に消滅し吸収されてしまい、子宮外妊娠手術をすることなく、無事に生児を得られたと聞いている。